

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500107		
法人名	株式会社 やよい会		
事業所名	みどりの郷 こんね		
所在地	大分県佐伯市弥生大字床木3番地1		
自己評価作成日	令和3年6月3日	評価結果市町村受理日	令和3年7月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail 20 16_022_kani=true&JigyosyoCd=4490500107-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府壱番館1F
訪問調査日	令和3年6月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然に囲まれ、庭には四季折々草木を見て楽しむ事が出来ます。地域の方が作ったお米をいただき、旬や季節感を意識した職員手作りの食事を楽しんでいただいています。施設の理念に沿って、ゆっくりとした時間を提供し、入居者様18名の思いを大切にして、心穏やかに生活を送って頂ける様にしています。また、わかりやすくゆっくりとした言葉で会話し、その方のペースを大切に安心した暮らしが送れる様にしています。入居者様にやりがいや楽しみを持って生活をして頂きたいと、施設でのお仕事をして頂いたり、今までの生活を本人様や家族の方に伺い把握しながら、出来る事、やりたい事などに目を向けたケアに取り組んでいます。施設の職員は年齢は様々ですが明るい雰囲気、家族の様な関係で入居者様により良い生活が送れる様コミュニケーションを取って、連携したり働きやすいよう職員同士が意見を出し合っています。不定期ですが、入居者様の普段の様子などを職員の手紙と写真にてお知らせしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の運営理念をもとに、日々の生活に少しでも変化をつけ、利用者のストレスをなくし、自信が持てるよう取り組み、認知症の理解に努め、表情や声かけを大切にされています。家族に、本人の状況を丁寧に伝え、家族アンケートからも家族との信頼関係を大切にしている姿勢が伺えます。地域との関係は、コロナ禍の折、難しいこともありますが、野菜の受け入れ・食材の仕入れなど、職員全員で対応し、地域交流を図っています。職員の主体性を大切に、身体拘束の委員会を設置され、職員の意見や提案をサービスの質の向上に活かしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は施設内の目に見えるところに掲示している。職員会議が始まる前に、唱和し、理念に沿った介護が出来る様に意識している。対応に困った時は理念に沿っているか振り返りながら日々のケアに当たっている	毎朝の引継ぎ時に理念を唱和し、職員で共有を行い、常に理念に沿った支援に心掛けた取り組みがなされています。また、管理者は職員の採用時においても理念を説明し、事業所の方向性を理解して頂くなどの取り組みがなされています。	理念は以前作られたものであり、コロナ禍の中、経験したことのない事態へと変わっています。そのため施設での面会・外出等も制限される中、利用者のストレス、生きづらさが気になります。理念の追加・見直しを期待します	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流ができていないのが現状。自治会に加入し、地域の清掃に参加している。コロナ禍にて年1回地域の方をお招きして行っていた秋祭りが中止となり、交流機会が減っている。七夕イベントの笹を用意していただいたり、地域の方よりお米を購入したり、野菜をいただき食事に提供している。お家の事情にて、体験入所という形で、地域の認知症の持病のある方をお受け入れた。	コロナ禍で、地域・近隣の方が訪れたり、地区の祭り等の行事に参加する交流事業が大変難しい時節となっておりますが、野菜の受け入れ、食料の仕入れなど出来る限り無理のないよう、地域との交流維持に取り組みがなされ、また地域密着型の役割として、家族の意向を反映した、体験入所などにも積極的な取り組みがなされています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々へ、認知症についての情報は発信出来ていない			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回運営推進会議を行って、施設の活動の報告をしたり、ご意見、ご質問をいただいている。また、包括支援センターの職員の方より佐伯市からのお知らせなどを発信していただいている。コロナ禍で書面での開催する事はあったが、ご家族皆様にアンケートを出し、ご意見やご質問がないか確認し結果を書面にて送付し対応した。	施設の出入りが制限される中、運営推進会議の開催も難しい状況ですが、利用者全員の家族・キーパーソンに運営推進会議の開催に対して、意見・要望等のアンケートを実施し、その内容を推進会議の委員に送付し、報告・意見収集などを双方向で課題解決に向けた、取り組みがなされています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センターの職員の方に参加していただいて、情報などをいただいている。会議に欠席した場合は会議録をお届けしている。運営や請求など不明な点など都度介護保険課などに問い合わせて連携を図っている	生活保護法・介護保険法や市の福祉制度の改正時は、地域包括支援センター・介護保険係の職員と連携を密にし、継続的に交流を行い、利用者の状況に応じた、支援体制に取り組まれています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止委員会にて、身体拘束チェックシートを活用しながら、日ごろから身体拘束を行っていないか振り返りをしている。	3か月に一度、権利擁護や身体拘束・虐待等について防止委員会を開催され、管理者・職員全員で共用するシステムが構築され、身体拘束ゼロの取り組みがなされています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を定期的で開催し、開催した会議の内容を各職員に把握していただき、理解を深めている。年に数回、職員全員が振り返りシートにて、自分の対応を振り返り、学びながら、注意する機会を持っている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方が1名いらっしゃる。成年後見制度について学ぶ機会がないので、勉強を行っていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約を交わす際には、契約書の内容を説明し、説明後には、疑問点等がなかったか伺って入居者様や家族の方が安心して頂ける様に努めている。契約内容に理解を頂いた上で契約書に署名、捺印をいただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回、運営推進会議の出席のアンケートの際にも意見や質問を伺っている。意見や質問の結果は後日書面にて報告している。玄関に意見箱を設置したり、面会時にも意見や要望を伺っている。昨年度行えなかった無記名アンケートを今年度は行う予定。	意見が出やすいように、意見箱の設置がされていますが、活用が少なくコロナ禍の折、一堂に集まる家族会議も厳しい状況です。家族の方と協議し予約制にて、意見・要望が聞きやすい環境づくりやアンケートを頂くなど、意見・要望収集に取り組まれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議において、業務内容についてや、施設内の必要物品の購入、修理等、職員の質問や意見や要望を聞いている。伝えた意見は対応してもらっている。また、個人面談を年2回行い、個別に意見や要望などを聞く機会を作っている	月1回の職員会議や個人面談などで勤務状況・利用者の支援方法など、日常の関わりの中で、気付きやアイデアが云いやすい環境づくりに対応され、利用者の受け入れ・今後の運営方法など、職員全員に理解して頂く体制がなされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務を組む際に休みの希望を取って、なるべく希望が叶えられる様に柔軟な対応をしている。有休やリフレッシュ休暇を取れる様にしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修のお知らせを通して、職員が研修に参加をしえいる。資格取得に向けて勤務の調整を行っている。施設内にて勉強会を行う機会が少ないのが現状		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐伯市内のグループホーム協議会に加入している。他グループホームにわからない事を質問する名地の交流はあるが、定期的な交流が出来ていないのが現状		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けて、ご本人様や御家族と電話や、直接お会いして、施設について、持ち物や料金の説明や、質問、心配な点を伺っている。入所前には施設見学をお願いし、施設について理解していただき、入所に対しての不安が少ない状態で入所して頂ける様にしている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談を受けると、ご本人様や御家族と直接お会いしたり、電話をして出来る範囲で本人様の様子や御家族が困っている事、心配な事などを伺う様にしている。入所前に施設見学に来ていただいたり、電話で連絡を取ったり関係づくりに努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談があった時には、ご本人様や御家族と直接お会いして話をしている。また、施設に見学に来ていただき、施設や、サービス内容の説明を行っている。ご本人様や御家族様の希望に応じて他種類の施設の説明をさせていただいたり、パンフレットをお渡ししている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の身体状況に応じて施設内での家事を一緒に行い、行って頂いた後には心の中もったお礼の言葉や感謝の気持ちをお伝えてしている。日々の生活の中で入居者様より人生に厳しさ、生活の知恵など教えて頂く事も多く、尊敬の気持ちを常に忘れず日々介護にあつたている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の方に、不定期だが、お手紙に写真を添えて普段の様子を報告している。面会の際には家族の方に普段の様子を報告している。面会時など情報交換を行い、介護の中で迷った際など、家族の方に家での様子、介護の方法などを伺ったり、意見をいただき、それを参考に対応している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人など、馴染みの関係の方と会ったり、連絡する機会が少ない、お手紙が届いたり、ご家族様のご協力をいただき同じ地区友人からのプレゼントなどが届く事がある。	利用者の重度化に伴い、馴染みの人との交流や知人等に会いたい気持ちが薄れていますが、手紙や電話などで連絡を取りたい時などは、本人の意向を大切に、支援できる取り組みがなされています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者様の性格や入居者様同士の間人間関係を把握し、気の合う入居者様同士が楽しく過ごせるように、席を配慮したり、一緒に会話をして話題を提供している。また、トランプ、散歩などの趣味活動を通して入居者様同士が交流できたり、関わりが持てるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転居された入居者様に面会が出来ないので、施設での様子を聞いたりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様へ希望を尋ねたり、入居者様との日頃の会話、表情、行動から思いを把握している。本人様より伺えない、わからない場合は家族の方からも希望や要望を伺いながら把握に努めている。	利用者との、コミュニケーションがとれれば意向を確認し、無理な時は家族等の意見を聞き対応され、本人が喜ぶ・笑う・嫌がる・怒るなどの表情から想いを感じ取り、支援に取り組みがなされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際にご家族様に伺ったり、入居者様との会話や、家族の方に伺い、生活歴、馴染んだもの、好きなもの、嫌いなもの等日頃の支援に活かせるようにアセスメントに書き込んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノート、連絡ノート、会議などを使用して職員間で入居者様の情報を共有している。また、職員会議で入居者様の心身の状態について話し合い状態の把握に努め、一人ひとりに合った過ごし方が出来る様に工夫、改善を続け、ケアの統一を図っている。また、日々の観察にて入居者様の居心地の良い場所や、やりたい事などを把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書を作成の際には、本人様、御家族様に施設の生活について要望を伺い、計画書に意見を取り入れている。目標の評価をしたり、課題、サービス内容が現在の状況と合っているか、計画書を継続して良いかなど見直しを行ったり、意見を出し合っている	計画書を作成するときは、本人・家族・担当職員の意見を参考に、本人が楽しく過ごせるよう、本人本位で作成され、また状態の急変等に伴い、計画書の見直しの必要性が発生した場合、モニタリングをしっかりと行い、職員全員で取り組みがなされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づき、変化、会議で検討した対応の結果や声かけの結果など個人ファイルや申し送りノートに記載したり、申し送りの際に各職員へ伝えて情報の共有、ケアの統一を図っている。介護計画書の作成や見直しの際に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の方や、本人様より必要物品購入の希望があれば購入したり、遠方の御家族様より面会時に宿泊希望があり対応したり、地域の居宅ケアマネジャーより依頼があり、地域の方で、家族の外出の為に体験利用があり、受け入れを行った。しかし、入居者様全員の細かな要望については対応出来ていないのが現状である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や本人様の希望により、市内の訪問美容師の方に来設していただき散髪を行って頂いている。佐伯消防署の方に協力していただき、避難訓練を行い、指導を受けるなど地域資源を活用している。地域資源の把握、活用はあまり出ていないのが現状である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や御家族の希望を伺い、入所前から受診している主治医は変更しない対応を行っている。受診の際には、職員がケア車を送迎し受診に行き、主治医に体調を報告したり、相談などを行い、家族の付き添い希望があれば最近の体調をメモするなどして主治医との連携を図っている。	利用者・家族の希望する主治医となっています。定期検診は、職員だけでなく家族の協力を得ながら支援されています。コロナ禍の中、迅速に主治医と連携をとりながら、適切な医療支援に取り組まれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が勤務しており、入居者様の健康管理、体調変化など介護職より報告、相談、を行い、連携している。状態の変化に応じた支援を行っている。また、入居者様の医療面についての申し送りノートがあり、それを読む事で把握している。入居者様の体調の変化について報告、相談をし、連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した場合には、施設での様子、入院までの経過などを入院先の病院へお伝えしたり、退院の際には、病院の相談員の方より情報を頂き、連携を取っている。また、入院中もお見舞いに行ったり、相談員の方に話を聞き様子を伺っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	説明書にて重度化した場合、施設にてどのような対応が可能なのか説明を行っている。入所の際に重度化で当施設での対応が困難になった時の説明も行っている。重度化に希望書を作成し、本人様や、御家族様の希望を伺い、書面に残している	最初の段階で施設としての出来ることをお伝えし、本人や家族に理解して頂き医療機関と連携を取りながら、支援体制が整えられています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しているが、定期的に勉強会は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の協力をいただき、避難訓練を行い、指導をいただいている。毎年、近くの川が氾濫したと想定して隣接施設と合同で水害訓練を行っている。いつ発生するか分からない災害に対して今後も訓練を継続していく。地域の方と協力体制が今後の課題である	定期的な避難訓練を様々な想定され、消防署の協力を得ながら実施されています。実際に大雨の時など、職員も一緒に隣接する施設の2階に避難し、一晩を過ごし、実際の災害時を想定され隣接施設と協力体制を築かれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の理念でもある入居者様の一人ひとりの思いや気持ちを大切にしながら、人生の先輩として尊敬の念を持ち接するように心がけている。個人情報に関しても、取り扱いに注意し、個人ファイルなどは戸棚や引き出しに直して見えない様になっている。	日頃より職員全員で利用者の尊厳を大切にされ、さりげないやさしい言葉かけを心掛けています。利用者が自己決定しやすい環境づくりの体制を整え、定期的に行われている研修も、工夫されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ入居者様が答えやすく、意思を出して頂ける様に声かけを行っている。希望を表すのに時間がかかっても、さりげなく待つなどして時間を取るようにしている。入居者様の状況に応じて二者択一にするなどの対応を行い希望を伺っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、入居者様の希望に応じて、起床の時間、食事の時間、など希望があれば、添う様に対応を行っている。時間帯など状況によっては希望に添えない時もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれが自分のできる方には自由にしていただいている。自力で行うのが困難な入居者様には服を選んでいただいたり、髪の毛をセットしたり、本人様の希望に添える様、質問しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備等、数名の方には、野菜の皮むき、食後にはお盆吹き、食器洗いを行ってくださっている。食事の献立も、嫌い、苦手な食材は別のものに変更したり、リクエストを聞いての献立に取り入れている	出来る事は一緒に手伝ってもらい、楽しく食事ができる雰囲気づくりに努めています。個々に沿って利用者に合わせて支援体制を整えられ、新鮮な野菜や旬の物の差し入れもあり、その時々を大切に、より食事を楽しんで頂けるよう支援に繋がっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事摂取量を記入する表を作成し記録に残し、摂取量を把握している。水分摂取量が少ない場合などにはジュースなど好みのものを出して水分摂取量が増えるようにしている。また、体調に応じて食べやすいものの変更している。入居者様の食べる力を把握し、職員会議や、日々の中で話合って入居者様にあった大きさや柔らかさ、水分にトロミを付けるなどの対応をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。入居者様の状況に合わせて歯ブラシ、口腔ケアのスポンジ、義歯洗浄剤を使用しながら口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、入居者様の個別の習慣を把握できるよう努めている。チェック表を用いて定期的な声掛けや誘導を行っている。尿取パット大きさも入居者様に合わせて変えている。なるべくトイレでの排泄が出来るようにトイレ内の手すりの位置を変化させたり、2名での介助をおこなっている。トイレにはイラスト入りの張り紙をしてわかりやすくしている	排泄チェック表は職員全員が一目で確認でき、利用者の支援に繋がっています。出来る限りトイレでの排泄で、気持ちよく過ごして頂きたいという思いで排泄支援はもとより、パット等も個々の希望を聞き、利用者へ寄り添った支援の体制を整えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様に応じて水分や運動を促している。排泄チェック表にていつ排便があったか、何日排便があいているのか把握している。看護師と連携し、緩下剤服用の一覧表を作成して、服用の指示をいただき、排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯や入浴日が決まっており、午後や夜間など希望する時間帯に対応が出来ないのが現状。なるべく希望する日に入浴を行ったり、同性の職員の入浴介助を希望する際には職員が替わったり、脱衣所に音楽をかけたり、入浴剤を活用して入浴が楽しめるようにしている	利用者の、体調やその時の気分等を大切にしながら、気持ちよく入浴を楽しんでもらえるように工夫されています。現在、夜間の入浴は難しいもののできる限り一人ひとりの意向に答えられる体制づくりに取り組まれています。また、入浴後の保湿等も個々に沿ったケアを大切にされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や表情、希望などを考慮してゆっくり休息がとれるように自室のベッド、ホール内のソファなどに案内している。夜間は好きなテレビを見た後に寝るなど好きな時間に就寝が出来るように支援している。夜間なかなか寝られない時には温かい飲物を飲みながらおしゃべりする等の対応を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には、名前、日にち、何食後なのかを声に出し確認し、薬を本人様の手の中に入れて飲んだのを確認している。服用後の薬の袋もチェックし、確実な服用を確認している。個人ファイルに処方箋を入れ、確認ができるようにしている。また、薬が変更になった時や症状が出た時には申し送りノートに記載している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様や家族の方より伺った生活歴などを参考に、施設内の仕事をしていただいている。行っていただいた後は感謝の気持ちをお伝えしている。また、希望を伺って入居者様のやりたい事を行っていただいている。また、食べたいもの、好きな物を希望した時にご家族様にお持ちいただいたり、購入して食べて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて毎年行っていたお花見やなど苑外に行く事がなくなった。気候によって施設の庭や施設周辺の散歩に出たりすることで外出している	施設内の中庭に、季節のお花や果実等が充実しており、日常的に庭を散歩して季節を感じてもらったり近所を散歩する体制が整えられています。コロナ禍、外出は難しいものの通院の際、少し遠回りをしてドライブを楽しんでもらうなど工夫されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、数人の方がお金を所持しているが、買い物に行く機会が持てていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との電話を希望した場合に施設の電話より電話を行って会話をしている。家族の方よりお電話を頂き会話をしている。家族や知人の方に年賀状を書いた方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂ける様に飾り付けを行っている。施設内には温湿度計を設置し、基本の温湿度を書面にし壁に貼り、その温湿度に近づけるよう機器を使用し管理している。また、日光の当たり具合や不快な音などを出さないように入居者様の意見を参考に職員が管理を行っている	利用者が居心地よく過ごして頂けるよう、体調やその時々のお気持ちに配慮された共用空間づくりをされています。また、温湿管理はもちろんのこと、感染予防対策を様々な工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様が一緒に過ごしたり、ひとりでゆっくり過ごせるよう、施設内の数か所に共用のソファや椅子などを設置している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際には、今まで使い慣れた布団や食器類いつも持っていた物などを持参していただく様にお願ひし、持って来ていただいている。全員ではないが、入居者様の気に入った物や家族からのプレゼント、家族との写真など貼ったりして居心地の良いお部屋作りをしている方もいる。テレビが好きな方はテレビを持ち込みされている	利用者が、居心地よく過ごせるよう馴染みの物を持ち込んで頂いたり、一人で居室の時間を快適に過ごして頂けるよう個々に沿った支援をされています。また、利用者のその時の気持ちや希望・体調を常に把握しながら支援に取り組まれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー手すりを設置し、入居者様お一人でも施設内の移動がしやすいようにしている。各部屋は色で分けられており、希望があればドアに名前を張り付ける対応をしている。また、トイレのドアなどに絵付きのトイレの張り紙をして場所を印している		